



本日

新永代苑

五  
今世長者鑑

郵  
込  
2.063  
5







日本新永代飛卷之五

目録



千人せんびと和わ此こ居い風かぜ呂ろ桶づ

おん大おほ文字なのの書かききたたまま出いず

いははななのの書かききたたまま出いず

廻まわりり燈あかり籠かごのの初はつ葉は切きり


まつ松まつ草くさ十じゅう年ねん株かままかかけけてて進しん上じやう

あままのの書かききたたまま出いず

饗庭文庫





平仲屋	三	吉仲屋		吉仲屋	七	巴にや

小樽三合共算加の十方女

全北下の三史地帯此流  
大坂よかたれちと事産此府南

後銀の悪女此家公産

美戎の賣ごまの同ぐらふ屋  
京押のめよかたれちと事其の流屋

草代衣よ諸蕪此傳授

二極一針此工史男あり

京よかたれちと事其の流屋  
よこし屋

日本新永代巻卷之五

千人新代居凡呂楠

上智と下愚とわらうらむ。流よらうらむものいひぐんに果報の縁  
てまてとあれん。そのそんよとては極べさあとのあずかあつと  
わとら食念といふるもて。中くま身はぬがてとらぬぬ。極とるえ  
懐ふ方う事する。九分十分の人の智恵。悪よま身はんととまま。と  
かまがうにらう。一生のま身とありひ。石は合を返屋まぶす。そ  
果報とあぐもてとていひ。と流よねてまのめと合思して。身  
とあそは。ととゆへんま事。極く悪病のいりぞう。さんど家  
業の中へま家。ととあつて。よあまつりりて。なごい。とと  
くの事。人親の知りとそのまに。流りると。そのあつて。今日と









江戸と百稼あつけた穢百とすくなくひろい一事も  
 す。とうくゆよ急びぬ星部と縁びひ。其月の終つてして  
 取附も陳さう一あふこそ。世中の換りあひをそ一づんのんこ  
 らと人よすぢれずて全路のさむらひぬご。された身神  
 のき一に上りあり又りあり。是も心算のありさう一ごぶが地  
 きももぶづの帳をつけて一年中の番あり一ととまごび。毎月  
 晦りよき月してらん人ご一よ全路とさうさうあり。信義のす  
 お一やうもくうけのうらふりおさうとさうさうのけをくは極  
 らでいんうりかふさう地とまご一とごて。今全路の人のさあ  
 じも。貸入とくす妻さうさう事ぬさう地をぬか。お後の花  
 月とてさう一白賣さうてその代えおいして。小南のちさう



ごさすし金堂人と利よまごひして。昔年人まきとごうごのこ  
ね実がりのいせぬよまごひして。もろぐんね派とてまごひご  
まごひごすべし。ききよのまごひよごひごす。まごひの  
のゆまよかろすまごひ。ごひごひごひごひごひごひごひご  
あごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
男ごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
ごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
ごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
よまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
いれらまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
もまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ

所人の性成とんそく。きよれと世よりあへて。金銀  
ごまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
ごまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
親にごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
あごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
いれらまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
かごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
うらまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
高貴のいらとごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
ごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ  
つらまごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひごひ



て全宗のさうじつに。世にそゆ新とらして。親とともこらひ  
 修りつるそびりの徳義と素人とすうに拍し義能なりと事  
 りのいかに。世に附り子あり入る拍し。今世に新まよ  
 りぬす。世とかんぐそ。くら老のこのいかに。徳義と  
 らしくとあつた。かあす。世にありと人よやめさされて。義  
 者と下よん。老とさ。りんとして。基とせうし。あて全宗を  
 附ハ。何の義とそ。世のいかに。義といかに。めうり。それとゆ  
 と。まんとすう。ゆん。あて。いかに。あまのう。か。ん。す。ま。ま。ハ  
 と。か。り。け。り。は。ち。あ。り。ま。ん。う。い。は。ば。よ。し。う。く。こ。ま。せ。て。京。の。美。心  
 心とら。今。世。の。あ。ひ。て。ま。い。を。あ。れ。た。げ。男。が。拍。が。り。と。つ。く。あ。ま  
 して。御。子。息。夜。は。い。は。友。徳。義。の。所。定。我。今。の。う。く。な。へ。出。の



日本書紀卷之六

六六



すあれどりとも思ふはわれきくなく思ふはよきかへしよ  
是れん京の親にもさごとくそとなく念息して御是んか  
けうーとて万事の義とあるて高のしらよの指と  
せけるれゆらありーく世はよきーゆりぬ人をゆめ  
てもわーさとしうんなくあいたむこそよき者の人  
物ぐり代志とそそれいらふ方とらてよがてんであ  
かこぢよ我とらる男つよハハ神ゆらて化人も換  
かゆるよの

白の世に花新ハ初巻切

御秘證の代は信じて町人百姓ゆらううつけ此身よ世方の  
風信内介ともふ花新よがそりらかく廿五年とて十年と

よううだつたに万事の要実も世に於十年けいこの物のわり  
てう一をいこころりそまよあて人う海を航をそや。昔々  
八本而ふあれをわしてしに念あらりーふ。今東ハ石匠  
のまよとあてそよいせん方の精進をやりていさう非僧の神  
といふことず。それとお慈も南ありて身のとらうそあゆ  
まいたうまぶりの内院のいさ。此介つうーその後獲ハ五月の  
ふりいんのかくまよ。蓋も通所ハ口とておハ後取ま  
らぬ。世とて海とて河東の原もあうくばりの後入ぬ  
りよそ人ごらかど。あくの居業んせもま屋師て世念の  
梅理まご嶺人らまれまよーも田舎屋を月あてふ。常世の柔  
屋ハゆらこつう。さうく世方は僕とせど。我人づらよはまを中















いしとともいふ一みするのよわとて早産かまうは貴のよて  
 金銀とて買ふ時と日帳簿とわらうとていふふあつていふり  
 と六むいへんけとていふのいふまゝいふれことをいふとて  
 のうとていふとていふとて金銀とていふのいふまゝいふ  
 ちりりいふとていふとていふのいふまゝいふとていふとて  
 我ゆとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 病とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 せうとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 つとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 すれとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 かまつて金銀の世にいふとていふとていふとていふとていふとて

身一といふ事とていふとていふとていふとていふとていふとて  
 やの事とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

友銀の悪女の悪さ

食者い食者い金銀の法書い富りうとていふとていふとていふとて  
 いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 一くはのいふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 心とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 がとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 ていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 りとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
 らとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて







ぞ。大か。傳き。つら。と。お。ひ。け。し。穿。を。ぬ。き。て。座。の。あ。と。ま。り。て。
 して。湯。を。あ。つ。ろ。ふ。ご。り。と。ま。ひ。び。り。を。見。し。ふ。る。ま。り。は。
 君。凡。呂。ろ。ろ。へ。湯。凡。呂。が。ほ。ろ。ろ。湯。凡。呂。の。あ。け。や。う。が。く。の。こ。
 と。し。と。ま。ら。れ。し。と。ま。ら。れ。し。つ。け。て。世。を。す。べ。し。又。
 ち。う。の。し。し。へ。は。ま。り。て。よ。か。と。座。か。ろ。し。ま。ら。が。す。の。あ。り。
 上。は。た。ま。の。内。の。あ。の。ら。と。ま。ら。し。の。の。あ。ら。べ。し。
 だ。ん。め。ん。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 小。の。の。づ。ら。い。よ。も。づ。ら。い。と。ま。ら。れ。て。今。す。ま。れ。と。つ。け。
 出。入。の。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 け。し。し。と。あ。り。し。し。の。れ。ろ。ろ。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 ま。で。ま。い。ろ。ろ。の。れ。ろ。ろ。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。

ら。く。ま。り。し。し。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 の。れ。ろ。ろ。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 人。し。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 美。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 柔。心。女。と。ま。ら。び。て。三。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 化。ゆ。り。と。ま。ら。び。て。三。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 ら。ぬ。獨。と。ま。ら。び。て。三。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 だ。わ。し。と。ま。ら。び。て。三。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 つ。い。野。命。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。
 時。く。の。あ。の。し。し。は。お。よ。し。て。お。夕。の。す。と。り。つ。け。











さりとてハ又さうして。あつたはとよハ百ののちくも。  
わらぬけきと。いはずや。商人の心よ。さうと。かづつハ大に。あわ  
やまりあり。いんも。うら。い。身神と。さ。死と。せ。ゆ。は。人  
あ。あ。い。と。よ。ぬ。身神。わ。ま。い。の。意。死。い。て。う。日。ご。よ。ふ。い  
ん。ご。身。中。の。墓。よ。ま。う。ら。い。よ。あ。ね。る。べ。い。され。た。それ。を  
を。や。と。い。さ。い。せ。ず。ま。れ。だ。金。路。の。ま。り。よ。よ。り。て。あ。ぬ。人。よ  
ま。で。も。念。と。し。ら。ら。れ。て。あ。ま。れ。と。お。も。ひ。も。是。を。身。の。あ。は  
れ。が。一。と。親。の。も。う。ご。い。げ。人。も。い。じ。う。ら。身。神。よ。あ。い。さ。い。こ  
よ。わ。ど。身。が。ん。の。意。死。と。り。て。い。さ。び。の。い。ち。を。ひ。よ。影。身  
い。う。う。一。世。立。身。と。て。長。忠。仲。九。と。て。世。の。人。の。あ。い。と。ハ。あ。れ。ん。  
う。の。ど。人。ハ。精。と。出。意。死。と。ん。ご。い。あ。い。て。い。う。う。う。う。南

機とたぬわよつとめて。立身すべし。是とやうくとさるる人。  
度。意。と。ら。す。の。こ。ハ。も。と。念。と。も。て。この。古。書。え。ん。と。さ。う。  
よ。う。う。さ。が。ん。が。あ。れ。も。の。あ。う。と。あ。る。ひ。と。も。あ。る。人。の。  
身。よ。ハ。い。れ。ぬ。す。し。金。路。と。り。け。身。神。と。り。つ。さ。い。う。う。ハ。は。  
ふ。べ。し。金。路。を。さ。い。も。人。の。あ。つ。も。決。身。の。身。一。は。よ。銀。捨。書。目。  
と。う。け。さ。す。も。あ。い。こ。小。後。仲。也。南。人。か。お。意。の。つ。う。き。ん。と。と  
つ。そ。人。と。あ。い。る。事。と。う。う。う。う。つ。く。な。き。事。と。三。井。何。が。一。た。年。い  
ん。と。自。然。は。機。と。わ。げ。西。遊。の。愛。お。は。ま。う。ら。い。ま。う。す。ん。と。  
は。て。え。い。か。ず。と。耐。か。か。中。く。か。の。作。業。と。遠。い。お。う。  
出。て。き。あ。よ。あ。う。く。ま。ま。い。今。文。の。あ。い。び。の。う。ら。通。り。ま。う。う。か。へ  
月。と。や。う。ご。ふ。中。念。仏。の。相。と。よ。那。果。と。て。ま。あ。中。と。あ。る。と。







永代新刊

上巻

永代新刊

永代新刊





